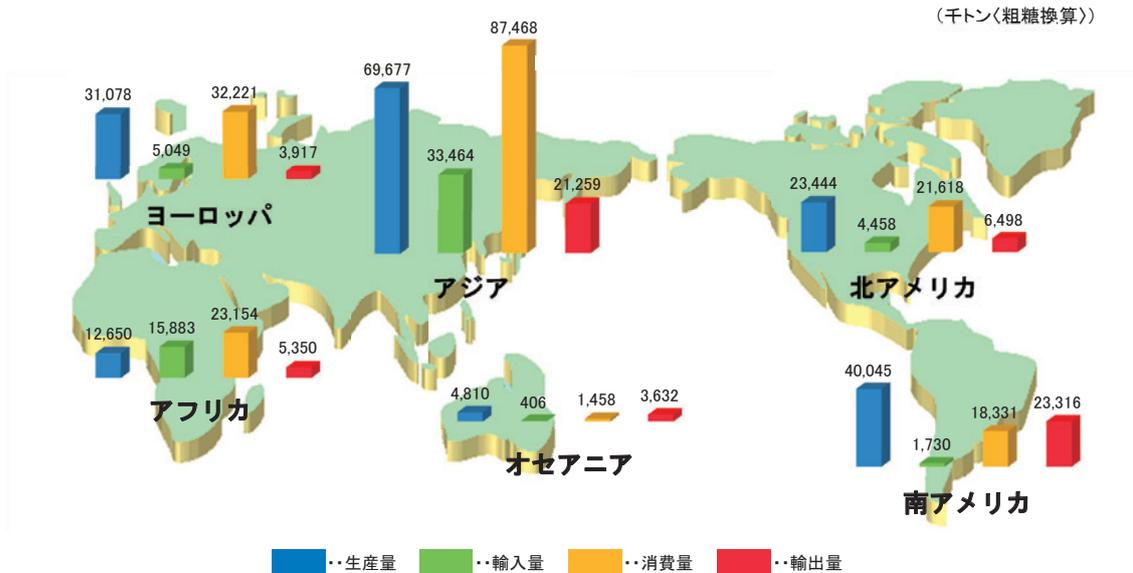


砂糖の国際需給

調査情報部 坂上 大樹

1. 世界の砂糖需給 (2019年9月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2019/20年度予測値)



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2019」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,017	160,315	56,023	164,778	56,244	50,333	30.5
2014/15	69,506	183,717	59,707	176,511	62,081	74,338	42.1
2015/16	74,338	175,955	67,776	179,659	69,077	69,334	38.6
2016/17	69,334	180,387	70,759	181,572	71,288	67,619	37.2
2017/18	67,619	195,315	67,377	180,681	69,466	80,164	44.4
2018/19	80,164	186,627	60,445	184,027	61,592	81,618	44.4
2019/20 (2019年9月予測)	81,618	181,706	60,991	184,250	63,971	76,093	41.3

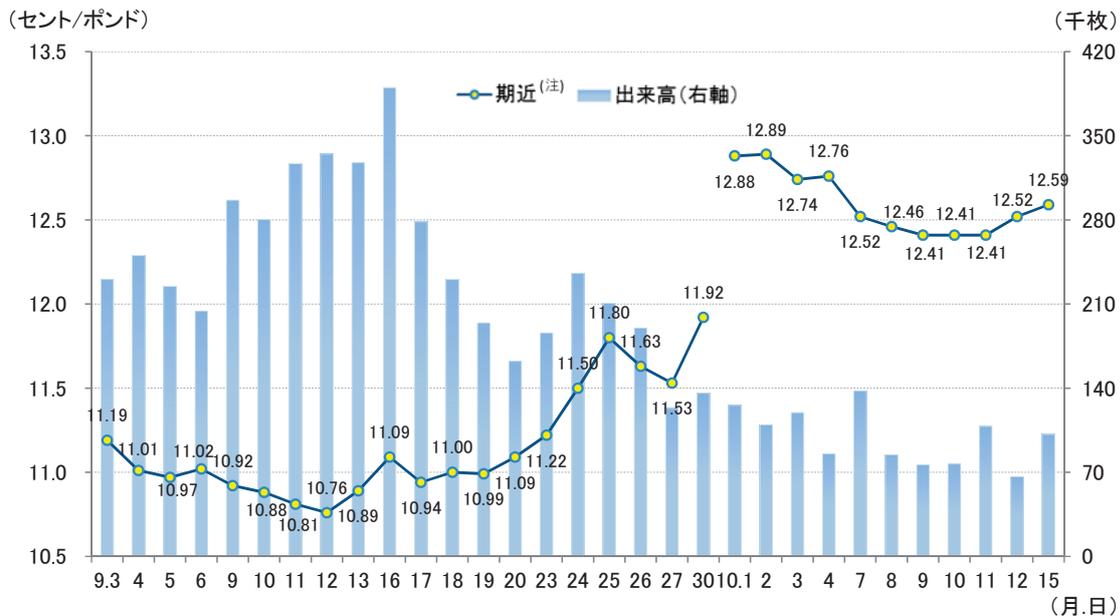
資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2019」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2017/18年度は予測値。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (9/3 ~ 10/15)

～3月限は12セント後半でスタートするも、下げ圧力は継続～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：9月は10月限、10月は3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2019年9月の推移を見ると（10月限）、3日は前月下旬からの下げ基調の流れを引きずり、1ポンド当たり11.19セント^(注)の値を付けた。その後も、主要生産国であるタイやインドの天候不順による生産への影響が想定ほど深刻ではないとの見方が強まり、じりじりと値を下げる展開が続き、12日は同10.76セントと2018年9月以来の低水準となった。13日は5営業日ぶりに上昇し、同10.89セントの値を付け、週明けの16日も続伸し、同11.09セントまで値を戻した。しかし、17日は反落し、同10.94セントとなった。下旬に入ると、納会を控えて買い戻しが入ったこともあり、4営業日連続の上伸を経て25日は同11.80セントと11セント台後半まで回復した。26日は急伸した反動から値を下げ、同11.63セントの値を付けた後、翌日も続落し、同11.53セントとな

った。10月限の納会となる30日は急反発し、同11.92セントとなった。

10月（3月限）に入ると、1日は同12.88セントの値を付けた。積極的に買う材料がないこともあり、3日は同12.74セントまで下落した後、翌日の小幅な反発を挟んで、7日は同12.52セントまで値を下げた。その後は、全般的に様子見ムードが広がり、取引が低調であった結果、おおむね横ばいで推移し、15日は同12.59セントとなった。

(注) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年10月時点予測）

本稿中の為替レートは2019年9月末日TTS相場の値であり、1ユーロ=120円（119.52円）である。

ブラジル

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：847万ha（前年度比2.0%減）

生産量：6億2900万トン（同1.3%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3017万トン（同3.6%減）

輸出量：1954万トン（同6.8%減）

2019/20年度、輸出量はかなりの程度減少する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2019年10月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作する動きが見られるため、847万ヘクタール（前年度比2.0%減）とわずかに減少するものの、生育期間を通じて天候がおおむね良好で、順調に生育していることから、サトウキビ生産量は6億2900万トン（同1.3%増）とわずかに増加すると見込まれる（表2）。

砂糖生産量は、長期化する砂糖の国際価格低迷などの影響を受けて、多くの製糖業者でエタノール生産を強化する動きが目立つことから、3017万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、同3.6%減）とやや減少し、輸出量は1954万トン（同6.8%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

砂糖生産に弱さが見られるものの、砂糖の期中在庫は記録的な水準に積み上がる

ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^{（注1）}によると、収穫最盛期を迎えた6月以降、天候に恵ま

れ順調に収穫が進んだことから、4月から9月までのサトウキビ収穫量は前年同期比2.7%増の4億7280万トンとなった。しかし、砂糖の国際価格の低迷でサトウキビをエタノール生産へ仕向ける動きが強まっており、砂糖生産への仕向け割合は過去最低を記録した前年をさらに1ポイント程度下回る35%台前半で推移している。このことから、同期の砂糖生産量は同2.3%減の2180万トンとなった。

他方、砂糖生産に弱さが見られる中、砂糖輸出の減速を背景に国内の砂糖在庫が急速に積み上がっている。ブラジル農務省は10月2日、9月の砂糖在庫量（製品ベース）が1000万トンを超え、この時期としては異例の高水準となったと発表した^{（注2）}。

（注1）ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を管轄区域とする業界団体。

（注2）例年は、製糖最盛期の5月から12月にかけて輸出量と消費量をはるかに上回る生産量となるため、12月末ごろに1000万トン近くまで在庫が積み上がる。その後、砂糖生産が終了する1月から急速に在庫が減り始め、最終的な期末在庫は100万トンを下回ることが多い。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

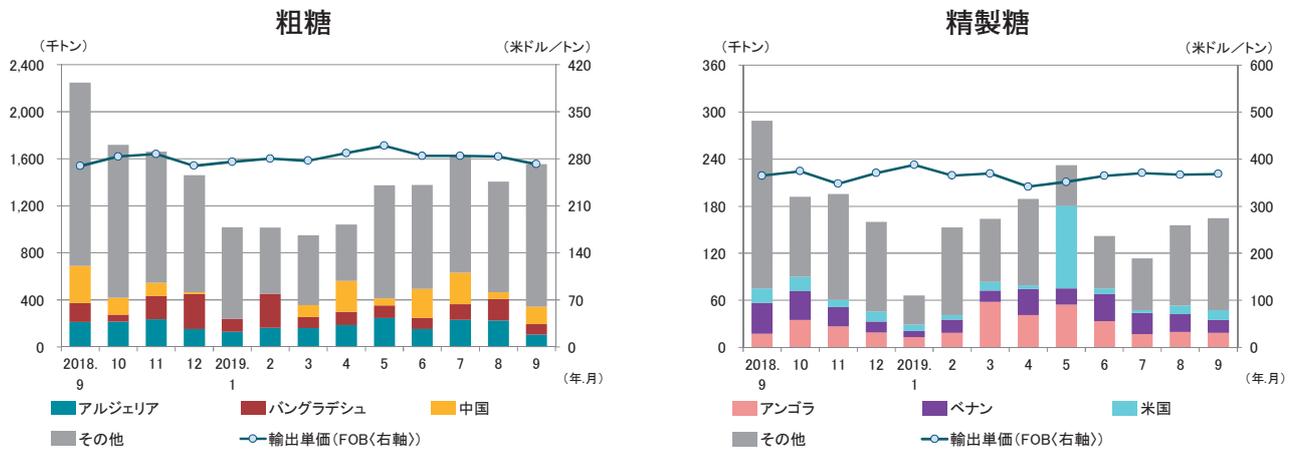
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (9月予測)	2019/20 (10月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	8,488	8,617	8,649	8,473	8,473	▲ 2.0
サトウキビ生産量	651,841	641,066	620,825	629,000	629,000	1.3
砂糖	生産量	41,670	41,490	31,300	30,145	▲ 3.6
	輸入量	4	2	3	3	▲ 9.6
	消費量	11,275	10,852	10,635	10,635	0.0
	輸出量	30,117	31,026	20,969	19,510	▲ 6.8
	期末在庫量	1,022	636	336	339	0.9
	期末在庫率	2.5	1.5	1.1	1.1	0.1ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3位を表示。

インド

2019/20年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：466万ha(前年度比8.5%減)

生産量：3億7017万トン(同7.7%減)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量：2987万トン(同16.1%減)

輸出量：422万トン(同17.9%減)

2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

多くの製糖業者が経営難に陥り、生産者への原料代の支払いが滞っていることから、生産者の生産意欲の減退を招いているほか、西部地域の各地で発生した洪水により圃場の浸水被害に見舞われたことなども影響して、2019/20砂糖年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は466万ヘクタール(前

年度比8.5%減)、サトウキビ生産量は3億7017万トン(同7.7%減)と、ともにかなりの程度減少すると見込まれる(表3)。

インド政府が9月に製糖業者などが石油販売会社に販売するエタノール価格の引き上げを承認したことから、今後サトウキビをエタノール生産へ仕向ける動きが活発になると予想され、前述したサトウキビ生産の落ち込みによる影響も併せて考慮すると、

砂糖生産量は2987万トン（同16.1%減）、輸出量は422万トン（同17.9%減）と、ともに大幅に減少すると見込まれる。

インド石油・天然ガス相、バイオエタノールの普及・拡大へ意欲示す

インドのドルメンドラ・プラハン石油・天然ガス相は10月14日、エタノール混合比率10%のガソリン（以下「E10」という）の普及率を2022年までに100%にする方針を改めて示した。

原油の約8割を海外に依存しているとされる同国は、輸入額の削減やエネルギー安全保障上の観点などから、2003年ごろにバイオエタノールの生産・普及に乗り出している。当初の計画では、2007年

ごろまでにE10をインド全土に普及させるとしていたが、現在出回っているエタノール混合ガソリンのエタノール混合比率は5%のものが主流で、E10の普及がなかなか進まない。その理由として、バイオエタノールの主原料となるサトウキビ由来の糖みつが不足していることや、製糖業者の生産基盤が脆弱^{ぜいじゃく}であることなどが指摘されている。

このため、同国政府はバイオエタノール生産に仕向ける糖みつの基準を見直したり、製糖業者以外の業者の新規参入を認めたりするなどの規制緩和を進めている。現地報道によると、現在、前述の目標を達成するため、石油販売会社に対しE10の販売を義務付けることも視野に入れた新たな対策が政府内で検討されている。

表3 インドの砂糖需給の推移

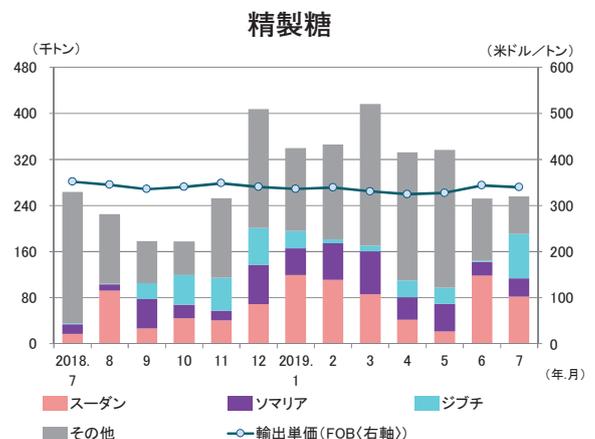
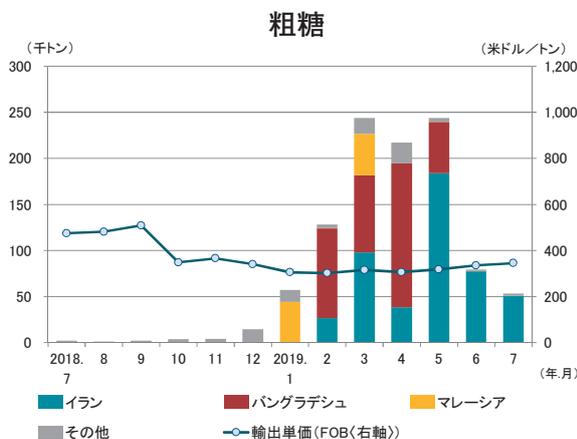
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (9月予測)	2019/20 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,327	4,826	5,090	4,613	4,657	▲ 8.5	
サトウキビ生産量	323,556	408,655	400,988	369,262	370,168	▲ 7.7	
砂糖	生産量	21,848	35,043	35,583	30,191	29,868	▲ 16.1
	輸入量	2,536	2,306	550	100	100	▲ 81.8
	消費量	26,568	26,929	27,460	28,006	28,084	2.3
	輸出量	2,233	2,361	5,140	4,220	4,220	▲ 17.9
	期末在庫量	3,952	12,012	15,545	13,610	13,209	▲ 15.0
	期末在庫率	13.7	41.0	47.7	42.2	40.9	6.8ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3位を表示。

中国

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：122万ha（前年度比0.4%増）

生産量：7369万トン（同6.2%減）

【てん菜】

収穫面積：24万ha（前年度同）

生産量：1137万トン（前年度比2.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1075万トン（同7.6%減）

輸入量：545万トン（同20.0%増）

2019/20年度、輸入量は大幅に増加する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は122万ヘクタール（前年度比0.4%増）と横ばいで推移するものの、天候不順などの影響で生育が停滞していることから、サトウキビ生産量は7369万トン（同6.2%減）とかなりの程度減少すると見込まれる（表4）。てん菜については、収穫面積は24万ヘクタール（前年度同）と横ばいで推移するが、主産地である内モンゴル自治区で広範囲の害虫被害が発生した影響から、てん菜生産量は1137万トン（前年度比2.5%減）とわずかに減少すると見込まれる。

これに伴い、砂糖生産量は1075万トン（同7.6%減）とかなりの程度減少し、その不足分を賅うため、輸入量は545万トン（同20.0%増）と大幅に増加すると見込まれる。

急増する砂糖輸入量、市場関係者の反応は冷静

中国税関総署が9月23日に公表した貿易統計によると、2019年8月の砂糖の輸入量は、前年同月比3.2倍の47万トンと急増した。2018年10月から同月までの累計は、282万トン（前年同期比25.9%増）と大幅に増加している。

市場関係者の間では、これはミャンマー、ラオス、ベトナムなどの周辺国を経由した砂糖の密輸の取り締まりが強化された結果と指摘する声が多い。現地報道によると、例年150万～280万トンの砂糖が中国に密輸されているとされるが、今年に入り中国税関当局が密輸ルートへの壊滅に向け、密輸業者の大規模な摘発に乗り出している。これに伴い、正規の輸入ルートでの輸入が増え、輸入量が統計に正しく反映されたことで、数値は例年より上振れしたという見方が強い。

表4 中国の砂糖需給の推移

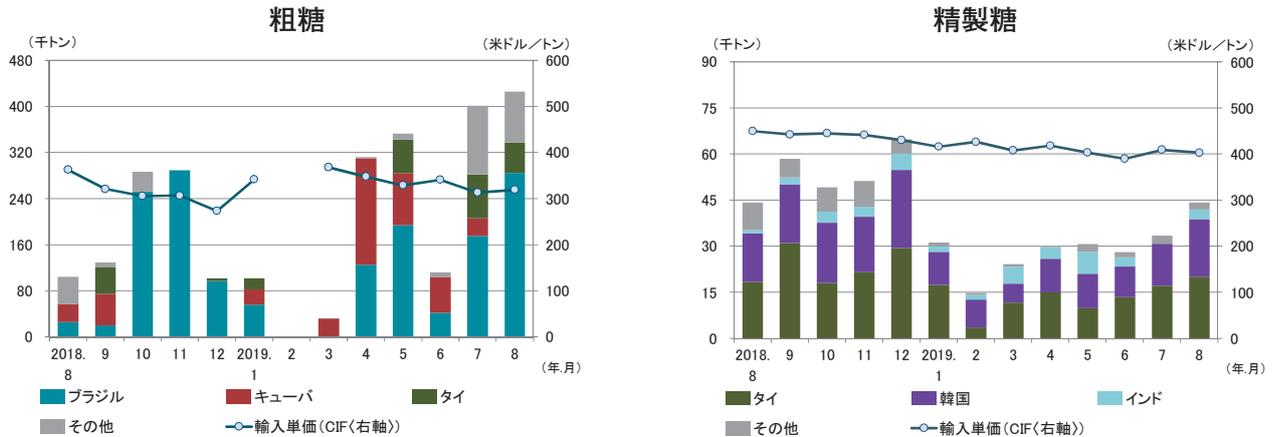
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (9月予測)	2019/20 (10月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,178	1,231	1,219	1,223	1,223	0.4
サトウキビ生産量	73,690	76,780	78,590	73,686	73,686	▲ 6.2
てん菜収穫面積	168	186	243	243	243	0.0
てん菜生産量	8,820	9,590	11,670	11,373	11,373	▲ 2.5
砂糖	生産量	10,041	11,147	11,640	10,753	▲ 7.6
	輸入量	5,715	6,117	4,542	5,949	20.0
	消費量	16,847	16,414	16,522	16,522	0.0
	輸出量	146	195	200	187	▲ 6.5
	期末在庫量	10,689	11,344	10,804	10,796	▲ 4.7
	期末在庫率	62.9	68.3	64.6	64.6	61.6

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3位を表示。

注3：2019年2月の粗糖は、輸入実績がなかった。

E U

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：162万ha（前年度比5.4%減）

生産量：1億1854万トン（同3.7%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1805万トン（同1.2%減）

輸出量：139万トン（同30.8%減）

2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は162万ヘクタール（前年度比5.4%減）とやや減少すると見込まれている（表5）。てん菜生産量は、深刻な干ばつに見舞われた前年度からの反動で1億1854万トン（同3.7%増）とやや増加すると見込まれる。

EU最大の砂糖生産国フランスにおけるてん菜生産の落ち込みが響き（後述）、砂糖生産量は1805万トン（同1.2%減）とわずかに減少し、生産量が消費量を下回ると予想されることから、輸出量は139万トン（同30.8%減）と大幅に減少すると見込まれている。

EUとメルコスールとのFTA、EUの批准手続きは難航必至

EUの政策に対して賛否を判断するオーストリア

議会の小委員会は9月19日、6月末にEUとメルコスール（南米南部共同市場）^(注1)が政治合意した自由貿易協定（FTA）について、締結に反対する決議を採択した。同委員会は、決議に基づき政府の意思を法的に拘束する権限を有していることから、オーストリア政府はこの決定に従い、加盟国の閣僚級代表により構成される欧州理事会において、同FTA締結に関する議案に反対票を投じることとなる。

同FTAを発効させるには、EUは欧州議会の同意と欧州理事会での全会一致の決定が必要となるが、今回のオーストリア議会の決定によってEU内の批准手続きは難航することが予想される。

なお、メルコスールとのFTAをめぐることは、フランスとアイルランドもFTA締結に反対する意向を表明している。EU各国がメルコスールとのFTA締結に抵抗する姿勢を示す背景には、同FTAに反対する農業団体などが政府への活発なロビー活動を

展開し、必死に巻き返しを図っていることがある。砂糖については、ブラジル産粗糖に対して現行の関税割当数量（33万4054トン）^{（注2）}の範囲内で無税の関税割当枠（18万トン）を設けることで合意しているが、欧州の製糖団体などは「史上最悪の譲歩」と酷評し、強く反発しており、合意の撤回と再交渉を求めている。

EUの粗糖の輸入量は、年により変動があるものの2018年はブラジルからの輸入量が最も多い。メルコスールとのFTAが発効すれば、同国からの輸入シェアが大きく広がる可能性がある。

（注1）外務省によると、メルコスールは域内の関税撤廃などを目的に発足し、アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ベネズエラ、ボリビアの6カ国が加盟している。ただし、ベネズエラは加盟資格停止、ボリビアは各国議会の批准待ちで現在議決権はない。

（注2）ブラジル産粗糖に対する関税割当内の関税率は1トン当たり98ユーロ（1万1760円）、関税割当外の関税率は同339ユーロ（4万680円）である。

フランスのてん菜生産量、前年と比べかなり減少する見込み

フランス農務省は10月9日、2019/20年度のてん菜生産量が前年比7.5%減の3700万トンとなる見込みと発表した。これは、平年より高温・乾燥した状況が続いたことに加え、長引く砂糖の国際価格の低迷とネオニコチノイド系農薬の使用規制^{（注）}により生産者の生産意欲の減退を招き、作付面積自体が減っていることが影響しているとした。

また、同省はてん菜生産量が減少する結果、製糖期間は前年より9日短い107日間になると予想しており、稼働率の低下による製糖業者の業績の影響にも懸念を示した。

（注）ネオニコチノイドの使用規制に関する情報は、当機構ホームページの海外情報「欧州委員会、3種類のネオニコチノイド系農薬の屋外での使用禁止を決定（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002218.html）をご参照ください。

表5 EUの砂糖需給の推移

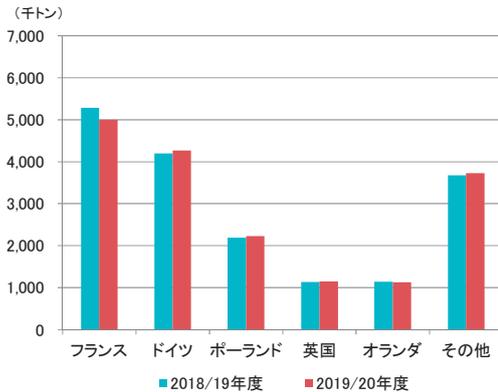
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (9月予測)	2019/20 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,466	1,732	1,710	1,623	1,618	▲ 5.4	
てん菜生産量	107,986	138,437	114,308	121,891	118,538	3.7	
砂糖	生産量	17,069	21,578	18,265	18,524	▲ 1.2	
	輸入量	3,117	1,731	2,432	2,718	11.7	
	消費量	19,177	19,219	19,111	19,218	0.6	
	輸出量	1,510	3,809	2,011	1,860	▲ 30.8	
	期末在庫量	2,278	2,559	2,134	2,332	2,287	7.1
	期末在庫率	11.0	11.1	10.1	11.1	11.1	1.0ポイント増

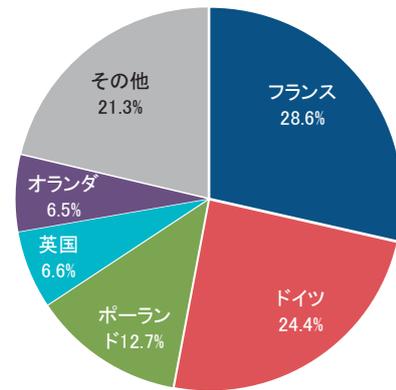
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2019年9月時点)



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2018/19年度は暫定値、2019/20年度は予測値。



資料：欧州委員会
注：2019/20年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2019年10月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピン、グアテマラで、2018年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1%（前年比1.6ポイント増）、タイが28.1%（同3.1ポイント増）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3か月に1回の報告とし、今回は南アフリカについて報告する。本稿中の為替レートは2019年9月末日TTS相場の値であり、1タイ・パーツ=3.61円である。

豪州

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比1.3%増）
生産量：3064万トン（同5.9%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：416万トン（同11.9%減）
輸出量：309万トン（同20.5%減）

2019/20年度、砂糖生産量はかなり大きく減少する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は39万ヘクタール（前年度比1.3%増）とわずかに増加するものの、夏の記録的な猛暑による影響で生育の遅れが見られることから、サトウキビ生産量は3064万トン（同5.9%減）とやや減少すると見込まれる（表6）。

砂糖生産量は、サトウキビの減産に加え、平均糖度が前年度を下回る水準で推移していることも影響し、416万トン（同11.9%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。また、輸出量は砂糖の国際価格の低迷で輸出を控える動きが見られることから、309万トン（同20.5%減）と大幅に減少すると見込まれる。

クイーンズランド州議会、グレートバリアリーフ保護対策法改正案を可決

クイーンズランド州議会は9月19日、グレートバリアリーフ（サンゴ礁）の保護強化を目的とした「グレートバリアリーフ保護対策法」の改正案を可決した。改正案は、深刻化するサンゴの白化現象^(注1)を食い止める手段の一つとして、産業界の自発的な取り組みの推進に重きを置く現行法を見直し、施用した肥料や農薬の量と種類を詳しく州政府に報告させることや、圃場から河川や地下水への肥料・農薬成分の流出を厳しく規制するなど行政の関与を強める内容となっている。

これに対し、クイーンズランド州の生産者団体であるCANEGROWERS^(注2)は同日、「サトウキビ生産者はこれまで持続可能な生産活動に真摯に取り

組み、州政府などが定める環境基準をすべてクリアしているにもかかわらず、環境保護という大義名分を振りかざして農業分野への環境規制をさらに強化する今回の決定は科学的でなく、失望した」と述べ、改正法の下で実施されるあらゆる政策・措置を断固として拒否すると表明した。

(注1) 水産庁によると、白化現象とは、サンゴ礁を形成する造礁サンゴに共生している「褐虫藻」と呼ばれる藻類が失われることで、サンゴの白い骨格が透けて見える現象。白化した状態が続くと、サンゴは褐虫藻からの光合成生産物を受け取ることができず、壊滅する。

(注2) 1934年に設立され、クイーンズランド州のサトウキビ生産者の4分の3が加入している農業団体。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (9月予測)	2019/20 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	368	376	380	385	385	1.3	
サトウキビ生産量	36,506	33,344	32,566	30,966	30,642	▲ 5.9	
砂糖	生産量	4,797	4,463	4,725	4,356	▲ 11.9	
	輸入量	68	29	30	30	▲ 33.3	
	消費量	1,159	1,112	1,068	1,089	2.0	
	輸出量	4,004	3,601	3,890	3,301	▲ 20.5	
	期末在庫量	969	747	544	540	544	0.1
	期末在庫率	18.8	15.8	11.0	12.3	13.0	2.1ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：157万ha（前年度比12.2%減）
生産量：1億1500万トン（同12.2%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1323万トン（同14.4%減）
輸出量：1302万トン（同22.9%増）

2019/20年度、砂糖生産量は減少するものの輸出量は増加する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物

へ転作する動きが見られるため、157万ヘクタール（前年度比12.2%減）、サトウキビ生産量は1億1500万トン（同12.2%減）と、ともにかなり大きく減少すると見込まれる（表7）。

砂糖生産量は、サトウキビ生産の落ち込みに加え、全国的な天候不順による生育不良で糖度低下の傾向が見られることから、1323万トン（同14.4%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。一方、輸出量については、前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するために輸出を強化するとみられることから、1302万トン（同22.9%増）と大幅に増加すると見込まれる。

糖類を含む飲料に対する課税、10月1日から税率引き上げ

タイ政府は10月1日、当初の予定通り糖類を含む飲料に対する課税（以下「砂糖税」）^(注1)の税率を引き上げた。この課税措置は、健康増進政策の一環^(注2)として2017年9月に導入されたもので、100ミリリットル中の糖類含有量が6グラム以上の飲料（ペットボトルや缶などの容器に入ったもの）が課税対象となる。砂糖含有量に応じて税率が異なるため、代表的な品目のみを挙げると、タイで一般的な甘い緑茶の税率（同10グラム以上14グラム未満のもの）は1リットル当たり0.5バーツ（約2円）から同1バーツ（約4円）、炭酸飲料の税率（同14

グラム以上18グラム未満）は同1バーツから同3バーツ（約11円）にそれぞれ引き上げられた。

同国物品税局によると、砂糖税の引き上げによる税収増は年間約10億バーツ（36億1000万円）と見込んでいる。また、同局は「飲料中の砂糖含有量は増税前とあまり変化が見られないものの、無糖の緑茶飲料の販売量は着実に増えている」と述べ、砂糖税導入によって消費者の商品選択の幅が広がり、健康への意識啓発にもつながっていることを成果として強調した。

(注1) タイにおける砂糖税の導入や課税スケジュールについては「政策変更が進むタイの砂糖産業の動向」『砂糖類・でん粉情報』2018年3月号 (https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001683.html) を、最近の業界関係者の見解については「タイにおける砂糖産業の動向」同2019年6月号 (https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001986.html) をご参照ください。

(注2) タイ保健省によると、砂糖などの糖類の成人1人・1日当たりの摂取量は100グラムを超えるとされる。このため、同国政府は世界保健機関（WHO）が奨励する、糖類摂取量1日25グラム未満（摂取する総カロリー5%未満）に抑えることを目標に掲げている。

表7 タイの砂糖需給の推移

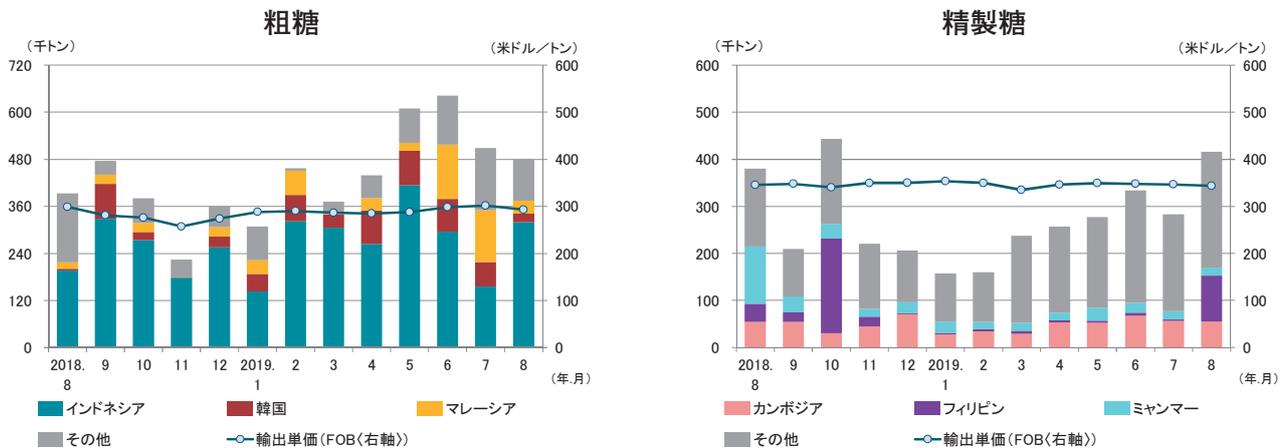
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (9月予測)	2019/20 (10月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,578	1,790	1,792	1,573	1,573	▲ 12.2
サトウキビ生産量	92,951	134,929	130,970	115,000	115,000	▲ 12.2
砂糖	生産量	10,657	15,586	15,457	13,234	▲ 14.4
	輸入量	0	6	3	3	0.0
	消費量	3,283	3,347	3,564	3,558	7.0
	輸出量	7,393	10,077	10,596	13,075	22.9
	期末在庫量	3,951	6,119	7,418	4,022	▲ 48.5
	期末在庫率	37.0	45.6	52.4	24.2	22.7

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注1: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2: 国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3位を表示。

南アフリカ

2019/20年度(4月～翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 28万ha (前年度0.7%増)

生産量: 1990万トン (同4.6%増)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量: 237万トン (同1.0%増)

輸出量: 93万トン (同14.7%減)

2019/20年度、輸出量はかなり大きく減少する見込み

2019/20砂糖年度(4月～翌3月)のサトウキビ収穫面積は28万ヘクタール(前年度比0.7%増)と横ばいで推移し、サトウキビ生産量は生育期間を通じて天候がおおむね良好で、順調に生育していることから、1990万トン(同4.6%増)とやや増加すると見込まれる(表8)。

収穫期前半の4月から5月ごろの降雨による収穫遅れでサトウキビの糖度低下が見られたものの、その後順調に収穫作業が進捗していることから、砂糖生産量は237万トン(同1.0%増)とわずかに増加すると見込まれる。輸出量は、砂糖の国際価格の低迷で輸出を控える動きが見られることから、93万トン(同14.7%減)とかなり大きく減少すると見込まれる。

南アフリカ最大手の製糖業者、サトウキビ生産事業から撤退へ

南アフリカ最大手の製糖業者トンガート・ヒューレット(Tongaat Hulett)社は、会計上の不正行為が発覚したことで、同社の株式が証券取引所で売買停止となり、2019年3月期の決算発表も大幅に遅れるなど混乱に陥っている。不正会計の発覚後、巨額の損失を抱えていることも明るみとなり、同社は10月11日、社内混乱の早期収束と経営立て直しを図るためサトウキビ生産事業から撤退すると発表した。

同社は、8400ヘクタールの農地で自らサトウキビ生産を行っているほか、具体的な数値は明らかにされていないが、かなりの面積を生産者に貸し付けてサトウキビ生産を委託しているとされる。今後、これらの農地は第三者に売却されるが、引き続きサトウキビ生産に供されるかは極めて不透明で、同国のサトウキビ生産全体に少なからず影響を及ぼす可能性がある。

表8 南アフリカの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (7月予測)	2019/20 (10月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	250	275	280	282	282	0.7	
サトウキビ生産量	15,075	17,388	19,032	19,299	19,900	4.6	
砂糖	生産量	1,712	2,158	2,348	2,334	2,373	1.0
	輸入量	963	847	599	678	683	14.1
	消費量	2,274	2,304	2,097	2,134	2,134	1.8
	輸出量	225	801	1,089	874	929	▲ 14.7
	期末在庫量	525	424	185	391	177	▲ 4.2
	期末在庫率	21.0	13.7	5.8	13.0	5.8	0.0ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, October 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。